

イチモンジセセリ（イネツトムシ）

成虫は茶褐色で体長は2 cm 位、翅を開いた長さは3.5 cm位で、後翅裏面の白い紋の配列が一直線となっている（写真1）。若齢幼虫は頭部が黒色で、体は全体に緑がかかっている。老齢幼虫は頭部が黄色で暗褐色の模様があり、体は淡緑色紡錘形、体長3~4 cm程度である。蛹は体長2.5 cmくらいで体表に白い粉をつけ、蛹化直後は乳白色だが後に褐色を呈する（写真2、3）。

幼虫態で越冬するが、越冬北限は太平洋側では福島県中部まで確認されており、本県は越冬個体群と飛来個体群が混在している。越冬世代成虫の出現は5月中旬で、第一世代成虫が7月上旬、第二世代成虫が8月下旬に出現する。成虫は葉色が濃く柔らかいイネの葉を好んで産卵する。

イネに最も大きな被害をもたらす第二世代幼虫は、7月下旬から8月中旬にかけて発生する。ふ化した幼虫は下葉の先を小さく綴り、中~老齢幼虫は上位2~3枚の葉を寄せ集めてツト（写真4）を作り、夜間に外に出てイネの葉を食害する。被害が大きくなると登熟不良となり減収する。直播栽培では幼虫の発生量が1 m²あたり約10頭以上（移植栽培では1株あたり0.5頭）で5%の減収となる。本県では、主に太平洋沿岸部において、イネの葉色が濃く葉が柔らかい、直播栽培や飼料用イネで被害が多く見られる。

防除は7月下旬から8月上旬の若齢幼虫の発生期に薬剤散布を行う。



写真1 イチモンジセセリ(イネツトムシ成虫)



写真2 イネ葉上のイネツトムシ（老齢）



写真3 齢期ごと幼虫（左から1齢）、蛹



写真4 ツト